

●公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き

(H27.1.27) から抜粋

1. 小規模化の傾向

P. 34-(2)

(少人数を生かした指導の充実Ⅰ)

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

(少人数を生かした指導の充実Ⅱ)

ICT（例：電子黒板、実物投影機、児童生徒用PC、デジタル教材等）を効果的に活用し、一定レベルの基礎学力を全ての児童生徒に保証する個別指導や補習の継続的な実施、学習内容の定着のための十分な時間の確保、修業年限全体を通じた繰り返し指導の徹底などを総合的に実施する

少人数であることを生かすことでより効果を高めることが期待できる教育活動（例：外国語の発音や発表の指導、プレゼンテーション指導、音楽・美術・図画工作・体育等の実技指導）において、きめ細かな指導や繰り返し指導を徹底する

技能の向上の観点から、ICTを活用して運動のフォームや実習の作業等を動画撮影し、効果的な振り返りに活用する

総合的な学習の時間において個に応じた学習課題を設定し、複数年にわたり徹底的に研究させる

少人数であることを生かして、各教科や総合的な学習の時間、特別活動等において、踏み込んだ意見交換をさせる

児童・生徒会活動や各種の班活動等を通じて、意図的に全ての児童生徒に全ての役職を経験させる

隣接学年のみならず、学校全体での異年齢活動や協働学習を年間を通じて計画的に実施する

教育活動全体を通じて、校外学習も含めた様々な体験の機会を積極的に取り入れる

## **P6-2章. (1)**

(学級数が少ないことによる学校運営上の課題)

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

## **P8-2章. (1)**

(学校運営上の課題が児童生徒に与える影響)

- ① 集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につみにくい

- ② 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- ③ 協働的な学びの実現が困難となる
- ④ 教員それぞれの専門性を生かした教育を受けられない可能性がある
- ⑤ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- ⑥ 教員への依存心が強まる可能性がある
- ⑦ 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある
- ⑧ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れることが難しい
- ⑨ 多様な活躍の機会がなく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい

## 2. 大規模化の傾向

### P. 7

(各学年で複数の学級編成できる場合のメリット)

児童生徒同士の間関係や児童生徒と教員との人間関係に配慮した学級編成ができる

児童生徒を多様な意見に触れさせることができる

新たな人間関係を構築する力を身に付けさせることができる

クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる

学級同士が切磋琢磨する環境を作ることができる

### P. 14

(大規模校・過大規模校における課題)

学校行事等において、係や役割分担のない子供が現れる可能性がある  
 など、一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある

② 集団生活においても同学年の結び付きが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある

同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒間の人間関係が希薄化する場合がある

教員集団として、児童生徒一人一人の個性や行動を把握し、きめ細かな指導を行うことが困難であり、問題行動が発生しやすい場合がある

⑤ 児童生徒一人当たりの校舎面積、運動場面積等が著しく狭くなった場合、教育活動の展開に支障が生じる場合がある

⑥ 特別教室や体育館、プール等の利用に当たって授業の割当てや調整が難しくなる場合がある

⑦ 学校運営全般にわたり、校長が一体的なマネジメントを行ったり、教職員が

十分な共通理解を図ったりする上で支障が生じる場合がある